

ビヨンドSDGs官民会議（仮称：英語名Beyond SDGs Public-Private Forum）について

2024年10月31日

円卓会議構成員 蟹江憲史

SDGsの達成期限が2030年に迫り、その後の目標がどのようになるのか、関心が高まりつつある。2024年9月のSummit of the Futureで決議のPact for the Futureでは、多国間プロセスが2027年にスタートするとの見込みである。これを踏まえ、また、SDGs策定過程を踏まえると、遅くとも2025年には科学をベースとしたマルチステークホルダーでの討議を開始し、SDGs達成期限である2030年の先の目標設定へ向けた機運を醸成し、目標達成への取り組みの継続性を認識しつつ行動を深めることが重要である。これにより、課題内容やその相互関連といった側面への理解を深め、目標やターゲットのあり方についての議論を行うことで、ステークホルダーによる様々な考え方やその相違、あるいはコンセンサスが得られると考えられる領域を明らかにしたい。

上記を踏まえ、2024年度中にビヨンドSDGs官民会議（仮称：英語名Beyond SDGs Public-Private Forum）を立ち上げることとする。こうしたプロセスにより国際社会をリードすることは、今後のわが国の持続可能な成長のために重要となると考える。

1. 概要：

- ・ 年2～3回程度の市民会議を対面にて開催。その他、可能であればオンラインでの会議開催も検討する。実施期間は当初2025年～2027年秋の3年間。可能であれば全国多地域で実施。
- ・ GSDRの6つのエントリーポイント（ウェルビーイングと能力、持続可能で公正な経済、持続可能な食料システムと健全な栄養、エネルギーの普遍的アクセスを伴う脱炭素化、都市と郊外の発展、グローバルな環境コモンズ）程度にグループを分け、目標対象分野や目指すべき将来目標についての議論を行いたい。
- ・ 各回では、前半いくつかのプレゼン（パネル）で、サイエンスによる検討状況やステークホルダーの見解をシェア。その後、議論を行う。
- ・ 各回のアウトプットは、目標のあり方（既存目標に入るか、あるいは新目標が必要か、など）、ターゲットのあり方（含数値（の幅）のあり方）。グローバルな目標とローカルな目標のあり方等を提示する。また、ガバナンスのあり方についても議論を行う。
- ・ 関連して、各自治体レベルやステークホルダーごとに同様の会議体が形成されることが望ましい。その場合の協働・連携方法は別途協議する。

2. 運営：

- ・ 事務局は、慶応義塾大学（Keio STAR（Keio Global Research Institute）あるいはxSDGラボを中心に構成する方向で検討中。
- ・ 運営委員会／ステアリングコミッティーを設置し、SDGs円卓会議メンバー、SDSNジャパン理事、Keio STAR参画企業、xSDGコンソーシアムメンバー、ユースメンバー等から選出して構成する予定。
- ・ 外務省、環境省、経済産業省、内閣府等への協賛／共催／を依頼予定。